17	Abrégé de la Grammaire Française		
	AF-135	1861	M.Noël, M.Chapsal著
	柳川春三、小林鼎輔が翻刻した『法朗西文典』の原本。		

◆ 書名の日本語訳は「簡約フランス語文法」。大きさ18×11㎝、98ページの小形本である。「INTRODUCTION」から始まり、全10章で構成されている。

◆ 当館は本書を2冊所蔵している。それぞれ、「蕃書調所」と「外国方」の印記をもつ。「蕃所調所」の方には、ところどころに鉛筆の書き込み（主に単語の日本語訳）がある。

なお、当館では、本書の他にNoëlとChapsalの共著によるフランス語の文法書を、5種類（**AF-140, AF-141, AF-142, AF-143, AF-144**）所蔵している。

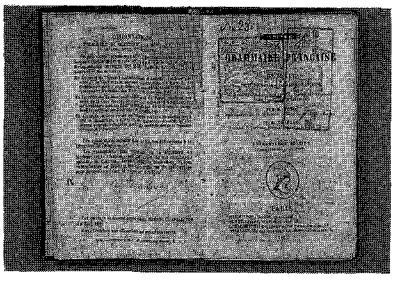
18	法朗西文典		
	AF-136,137,138	慶応2年(1866)	柳川春三・小林鼎輔翻刻
	ノエル、シャプサル共著のフランス語文法書の翻刻版。		

◆ "Abrégé de la Grammaire Française"（1861 Noël,Chapsal共著）の日本における翻刻版。開成所でのフランス語教授のために、開成所の柳川春三(1832－1870)が、同僚の小林鼎輔（生没年不詳）とともに刊行した。上下巻あわせて49丁の小部な和綴じ本である。文字はすべて筆記体の木版刷りである。

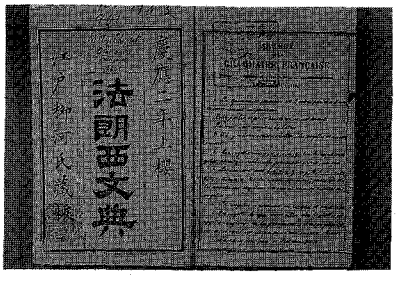
本書では、原本の序文(PRÉFACE)、端書き(AVERTISSEMENT）が省略されており、いきなり本文から始められている。上巻には序論と第1章～第5章、下巻には第5章（上巻の続き）～第10章が収められている。各章は、名詞、冠詞、副詞等の品詞別に構成されている。第5章の動詞の項には、動詞の活用形が多数収録され、最も多くのページがさかれている。また、序論では、母音、子音の説明等、主として発音の問題に重きが置かれている。これらの内容、構成は原本に忠実であり、編者が新たに手を加えた形跡はみられない。

慶応3年(1867)、柳川と小林は『法朗西文典後編』(**AF-139**)を発行する。これは、『法朗西文典』に収めなかった原本の注（第10章の後に24ページ続いている）だけを翻刻したものである。こちらは活字印刷である。

◆ 当館の所蔵状況は次の通りである。上下巻合本1冊(**AF-136**)、上巻4冊(**AF-137**)、下巻2冊(**AF-138**)、『法朗西文典後編』2冊(**AF-139**)。いずれも「開成所」の印記をもつ。



17 簡約フランス語文法



18 法朗西文典